

TF5/3/1 TF-RACK Firmware

主なアップデート内容

V4.55

機能追加 (V4.55)

- Audinate 社提供の Dante モジュール Brooklyn3 を搭載した NY64-D に対応しました。

仕様変更 (V4.55)

- 内蔵オシレーターの PINK NOISE と BURST の出力レベルを約 10dB レベルを上げました。

機能追加 (V4.50-2)

- NY64-D の Dante ファームウェアを更新しました。TF 本体のファームウェアは V4.50 のままで変更ありません。
 - NY64-D と DHCP サーバーを再起動したときに、ごくまれに他の TCP 通信に Dante モジュールが影響を与える不具合を解消しました。
 - Dante Domain Manager (DDM) の SMPTE モード*(ST2110-30 clocking)に対応しました。このため DDM 登録中は Word Clock と Preferred Leader が変更できなくなります。
*DDM の SMPTE モードでは、ドメインは SMPTE ST2110-30 クロッキング用に構成され、Dante デバイスと非 Dante SMPTE デバイス間のオーディオの相互運用性を実現します。
 - NY64-D アップデート後の Dante バージョンは 4.2.4.1 - 4.0.5.2 - 3.1.0 となり、Dante Controller で確認できます。

注)

- TF 本体の Firmware は V4.50 のまま変更ありませんので、現在 V4.50 の場合は再度アップデートする必要はありません。

機能追加 (V4.50)

- チャンネルライブラリーの初期 QuickPro Presets に、Audix マイクプリセットを追加しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。

仕様変更 (V4.50)

- USB TO HOST 端子の USB1、2 出力にて、Ch 1/2 Direct Out に加え STEREO L/R、MATRIX 等を選択して出力できるようになりました。

不具合修正 (V4.50)

- エンコーダー([TOUCH AND TURN] ノブ)を高速に回転させた時、エンコーダーを押して回転させた挙動になる場合がある不具合を修正しました。

不具合修正 (V4.02)

- TF5,TF3,TF1,TF-RACK V4.00,V4.01 および TF Editor V4.00 において、設定ファイル(.TFF ファイル)をロードしたとき、設定にかかわらず Recall Safe の挙動が更新されない問題を修正しました。

不具合修正 (V4.01)

- TF-RACK において、[TAP]キーによるディレイタイム設定ができない不具合を修正しました。

機能追加 (V4.00)

- OVERVIEW 画面に Selected Channel セクションを追加しました。各チャンネルの主な音作りをひとつの画面でできるようになりました。Selected Channel セクションを表示するには、PREFERENCE 画面の[HOME] Key で「Selected Channel」をオンにしてください。
- シーンの FADE TIME 機能を追加しました。
シーンリコール中に、TF5/TF3/TF1 のフェーダーや画面の挙動が内部数値の遷移に追従しないことがあります、実際の音声出力(音量)は内部数値に追従して連続的に変化します。
- チャンネルを自由にアサインできるミュートグループ 3~6 を追加しました。チャンネルのアサインは SETUP 画面→MUTE GROUP ASSIGN 画面、または各チャンネルの ASSIGN 画面で設定します。
- リコールセーフパラメーターの「On」と「Fader」を個別に設定できるようになりました。
- SEND FROM 画面のメニューに Copy/Paste を追加しました。選択している AUX/MATRIX/SUB チャンネルの SEND レベルをコピー/ペーストします。
- AUX/MATRIX/SUB チャンネルのメニューに、CH Copy with Sends/CH Paste with Sends を追加しました。
- AUTOMIXER 画面にグループバイパス機能を追加しました。
- PREFERENCE 画面に下記の機能を追加しました。
 - Auto Channel Select セクションに「[SEND SEL]>[CUE] Link」を追加しました。オフに設定すると、SENDS ON FADER キーの選択にセンドマスターの CUE が追従する従来の機能が無効になります。
 - Key Function セクションを追加しました。
 - [HOME] Key に「Selected Channel」を追加しました。

- USER DEFINED KEYS と FOOT SWITCH に割り当てできる機能を追加しました。
 - Automixer の Group Bypass と各チャンネルのオン/オフ
 - Mute Master の MUTE GROUP3~6
- ST IN 1/2 チャンネルに、チャンネルディレイを追加しました。
- クイックコンフィグ機能で接続された DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのミュート操作機能を SLOT SETUP 画面に追加しました。この機能を使用するために、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズは V1.1.2 以降のバージョンをご使用ください。また、同じ Dante ネットワークに接続する TF はすべて V4.00 以降にバージョンアップしてください。
- EQ と GEQ で、[SHIFT]キーを長押しすると、選択中のバンドのゲインがノミナル(0.0dB)になる機能を追加しました。
- GEQ で、[TOUCH AND TURN]ノブの操作対象を、ゲインと周波数とで交互に切り替える機能を追加しました。[SHIFT]キーを押す、または[TOUCH AND TURN]ノブを押すことで切り替えできます。
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また一部データを変更しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

仕様変更 (V4.00)

- ミュートグループマスターがオンのときに、トップパネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。
- RECORDER 画面で、同じフォルダー内に置けるオーディオファイル数の制限を 150 ファイルに変更しました。フォルダーも含めてファイル数が 150 を超えると、超えた分のフォルダーやファイルはリストに表示されません。150 ファイル以内になるようフォルダー分けをしてご使用ください。

既知の不具合

- 同一 Dante ネットワーク内に複数のデバイスが接続されたシステムにおいて、TF の電源投入時に稀に"Wrong Word Clock Error (Dante Device)"が表示されることがあります。発生した場合は TF 単体またはシステム全体の電源を再投入してご使用ください。
- パワードスピーカーシステム DZR-D シリーズ、パワードサブウーファーシステム DXS-XLF-D シリーズと TF シリーズが接続されている状態で DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのユニット ID を複数回変更すると、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズが TF シリーズの画面に表示されなくなる場合があります。TF シリーズまたは DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズの電源を入れなおすと、再度表示されるようになります。
- TF シリーズの電源を入れたときや本体のファームウェアをアップデートしたときに、Dante ネットワークに一瞬ノイズが発生する場合があります。TF シリーズの電源を入れてから出力機器の電源を入れてください。
- NY64-D の Transmit チャンネルにラベルが付いていると、下記の不具合が発生する場合があります。
 - DDM サーバーに接続したときや、ワードクロックを変更したときに「Dante Setting Error! Please Restart the Console.」というメッセージが表示される。
 - DDM ドメインへの登録/登録解除を繰り返した機器が TF シリーズに認識されなくなる。

これらの現象は、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

- Dante ネットワークに接続されている機器が多い場合、機器の電源を一斉に入れたときに、接続されている機器が TF シリーズに認識されなくなる場合があります。TF シリーズの電源を入れなおすと認識されるようになります。

運用上の注意

- フローの多い Dante ネットワークに TF シリーズのネットワーク端子を接続して、NETWORK 画面を操作したり Refresh ボタンを押したりすると、TF シリーズの画面がフリーズする場合があります。TF シリーズのネットワーク端子を Dante ネットワークに接続しないでください。画面のフリーズは、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

V4.50-2

機能追加 (V4.50-2)

- NY64-D の Dante ファームウェアを更新しました。TF 本体のファームウェアは V4.50 のままで変更ありません。
 - NY64-D と DHCP サーバーを再起動したときに、ごくまれに他の TCP 通信に Dante モジュールが影響を与える不具合を解消しました。
 - Dante Domain Manager (DDM) の SMPTE モード*(ST2110-30 clocking)に対応しました。このため DDM 登録中は Word Clock と Preferred Leader が変更できなくなります。
*DDM の SMPTE モードでは、ドメインは SMPTE ST2110-30 クロッキング用に構成され、Dante デバイスと非 Dante SMPTE デバイス間のオーディオの相互運用性を実現します。
 - NY64-D アップデート後の Dante バージョンは 4.2.4.1 - 4.0.5.2 - 3.1.0 となり、Dante Controller で確認できます。

注)

- TF 本体の Firmware は V4.50 のまま変更ありませんので、現在 V4.50 の場合は再度アップデートする必要はありません。

機能追加 (V4.50)

- チャンネルライブラリーの初期 QuickPro Presets に、Audix マイクプリセットを追加しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。

仕様変更 (V4.50)

- USB TO HOST 端子の USB1、2 出力にて、Ch 1/2 Direct Out に加え STEREO L/R、MATRIX 等を選択して出力できるようになりました。

不具合修正 (V4.50)

- エンコーダー([TOUCH AND TURN] ノブ)を高速に回転させた時、エンコーダーを押して回転させた挙動になる場合がある不具合を修正しました。

不具合修正 (V4.02)

- TF5,TF3,TF1,TF-RACK V4.00,V4.01 および TF Editor V4.00 において、設定ファイル(.TFF ファイル)をロードしたとき、設定にかかわらず Recall Safe の挙動が更新されない問題を修正しました。

不具合修正 (V4.01)

- TF-RACK において、[TAP]キーによるディレイタイム設定ができない不具合を修正しました。

機能追加 (V4.00)

- OVERVIEW 画面に Selected Channel セクションを追加しました。各チャンネルの主な音作りをひとつの画面でできるようになりました。Selected Channel セクションを表示するには、PREFERENCE 画面の[HOME] Key で「Selected Channel」をオンにしてください。

- シーンの FADE TIME 機能を追加しました。
シーンリコール中に、TF5/TF3/TF1 のフェーダーや画面の挙動が内部数値の遷移に追従しないことがあります。実際の音声出力(音量)は内部数値に追従して連続的に変化します。
- チャンネルを自由にアサインできるミュートグループ 3~6 を追加しました。チャンネルのアサインは SETUP 画面→MUTE GROUP ASSIGN 画面、または各チャンネルの ASSIGN 画面で設定します。
- リコールセーフパラメーターの「On」と「Fader」を個別に設定できるようになりました。
- SEND FROM 画面のメニューに Copy/Paste を追加しました。選択している AUX/MATRIX/SUB チャンネルの SEND レベルをコピー/ペーストします。
- AUX/MATRIX/SUB チャンネルのメニューに、CH Copy with Sends/CH Paste with Sends を追加しました。
- AUTOMIXER 画面にグループバイパス機能を追加しました。
- PREFERENCE 画面に下記の機能を追加しました。
 - Auto Channel Select セクションに「[SEND SEL]>[CUE] Link」を追加しました。オフに設定すると、SENDS ON FADER キーの選択にセンドマスターの CUE が追従する従来の機能が無効になります。
 - Key Function セクションを追加しました。
 - [HOME] Key に「Selected Channel」を追加しました。
- USER DEFINED KEYS と FOOT SWITCH に割り当てできる機能を追加しました。
 - Automixer の Group Bypass と各チャンネルのオン/オフ
 - Mute Master の MUTE GROUP3~6
- ST IN 1/2 チャンネルに、チャンネルディレイを追加しました。
- クイックコンフィグ機能で接続された DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのミュート操作機能を SLOT SETUP 画面に追加しました。この機能を使用するために、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D

シリーズは V1.1.2 以降のバージョンをご使用ください。また、同じ Dante ネットワークに接続する TF はすべて V4.00 以降にバージョンアップしてください。

- EQ と GEQ で、[SHIFT]キーを長押しすると、選択中のバンドのゲインがノミナル(0.0dB)になる機能を追加しました。
- GEQ で、[TOUCH AND TURN]ノブの操作対象を、ゲインと周波数とで交互に切り替える機能を追加しました。[SHIFT]キーを押す、または[TOUCH AND TURN]ノブを押すことで切り替えできます。
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また一部データを変更しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

仕様変更 (V4.00)

- ミュートグループマスターがオンのときに、トップパネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。
- RECORDER 画面で、同じフォルダー内に置けるオーディオファイル数の制限を 150 ファイルに変更しました。フォルダーも含めてファイル数が 150 を超えると、超えた分のフォルダーやファイルはリストに表示されません。150 ファイル以内になるようフォルダー分けをしてご使用ください。

既知の不具合

- 同一 Dante ネットワーク内に複数のデバイスが接続されたシステムにおいて、TF の電源投入時に稀に"Wrong Word Clock Error (Dante Device)"が表示されることがあります。発生した場合は TF 単体またはシステム全体の電源を再投入してご使用ください。
- パワードスピーカーシステム DZR-D シリーズ、パワードサブウーファーシステム DXS-XLF-D シリーズと TF シリーズが接続されている状態で DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのユニット ID を複数回変更すると、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズが TF シリーズの画面に表示され

なくなる場合があります。TF シリーズまたは DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズの電源を入れなおすと、再度表示されるようになります。

- TF シリーズの電源を入れたときや本体のファームウェアをアップデートしたときに、Dante ネットワークに一瞬ノイズが発生する場合があります。TF シリーズの電源を入れてから出力機器の電源を入れてください。
- NY64-D の Transmit チャンネルにラベルが付いていると、下記の不具合が発生する場合があります。
 - DDM サーバーに接続したときや、ワードクロックを変更したときに「Dante Setting Error! Please Restart the Console.」というメッセージが表示される。
 - DDM ドメインへの登録/登録解除を繰り返した機器が TF シリーズに認識されなくなる。

これらの現象は、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

- Dante ネットワークに接続されている機器が多い場合、機器の電源を一斉に入れたときに、接続されている機器が TF シリーズに認識されなくなる場合があります。TF シリーズの電源を入れなおすと認識されるようになります。

運用上の注意

- フローの多い Dante ネットワークに TF シリーズのネットワーク端子を接続して、NETWORK 画面を操作したり Refresh ボタンを押したりすると、TF シリーズの画面がフリーズする場合があります。TF シリーズのネットワーク端子を Dante ネットワークに接続しないでください。画面のフリーズは、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

V4.50

機能追加 (V4.50)

- チャンネルライブラリーの初期 QuickPro Presets に、Audix マイクプリセットを追加しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。

仕様変更 (V4.50)

- USB TO HOST 端子の USB1、2 出力にて、Ch 1/2 Direct Out に加え STEREO L/R、MATRIX 等を選択して出力できるようになりました。

不具合修正 (V4.50)

- エンコーダー([TOUCH AND TURN] ノブ)を高速に回転させた時、エンコーダーを押して回転させた挙動になる場合がある不具合を修正しました。

不具合修正 (V4.02)

- TF5,TF3,TF1,TF-RACK V4.00,V4.01 および TF Editor V4.00 において、設定ファイル(.TFF ファイル)をロードしたとき、設定にかかわらず Recall Safe の挙動が更新されない問題を修正しました。

不具合修正 (V4.01)

- TF-RACK において、[TAP]キーによるディレイタイム設定ができない不具合を修正しました。

機能追加 (V4.00)

- OVERVIEW 画面に Selected Channel セクションを追加しました。各チャンネルの主な音作りをひとつの画面でできるようになりました。Selected Channel セクションを表示するには、PREFERENCE 画面の[HOME] Key で「Selected Channel」をオンにしてください。

- シーンの FADE TIME 機能を追加しました。
シーンリコール中に、TF5/TF3/TF1 のフェーダーや画面の挙動が内部数値の遷移に追従しないことがありますが、実際の音声出力(音量)は内部数値に追従して連続的に変化します。
- チャンネルを自由にアサインできるミュートグループ 3~6 を追加しました。チャンネルのアサインは SETUP 画面→MUTE GROUP ASSIGN 画面、または各チャンネルの ASSIGN 画面で設定します。
- リコールセーフパラメーターの「On」と「Fader」を個別に設定できるようになりました。
- SEND FROM 画面のメニューに Copy/Paste を追加しました。選択している AUX/MATRIX/SUB チャンネルの SEND レベルをコピー/ペーストします。
- AUX/MATRIX/SUB チャンネルのメニューに、CH Copy with Sends/CH Paste with Sends を追加しました。
- AUTOMIXER 画面にグループバイパス機能を追加しました。
- PREFERENCE 画面に下記の機能を追加しました。
 - Auto Channel Select セクションに「[SEND SEL]>[CUE] Link」を追加しました。オフに設定すると、SENDS ON FADER キーの選択にセンドマスターの CUE が追従する従来の機能が無効になります。
 - Key Function セクションを追加しました。
 - [HOME] Key に「Selected Channel」を追加しました。
- USER DEFINED KEYS と FOOT SWITCH に割り当てできる機能を追加しました。
 - Automixer の Group Bypass と各チャンネルのオン/オフ
 - Mute Master の MUTE GROUP3~6
- ST IN 1/2 チャンネルに、チャンネルディレイを追加しました。
- クイックコンフィグ機能で接続された DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのミュート操作機能を SLOT SETUP 画面に追加しました。この機能を使用するために、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D

シリーズは V1.1.2 以降のバージョンをご使用ください。また、同じ Dante ネットワークに接続する TF はすべて V4.00 以降にバージョンアップしてください。

- EQ と GEQ で、[SHIFT]キーを長押しすると、選択中のバンドのゲインがノミナル(0.0dB)になる機能を追加しました。
- GEQ で、[TOUCH AND TURN]ノブの操作対象を、ゲインと周波数とで交互に切り替える機能を追加しました。[SHIFT]キーを押す、または[TOUCH AND TURN]ノブを押すことで切り替えできます。
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また一部データを変更しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

仕様変更 (V4.00)

- ミュートグループマスターがオンのときに、トップパネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。
- RECORDER 画面で、同じフォルダー内に置けるオーディオファイル数の制限を 150 ファイルに変更しました。フォルダーも含めてファイル数が 150 を超えると、超えた分のフォルダーやファイルはリストに表示されません。150 ファイル以内になるようフォルダー分けをしてご使用ください。

既知の不具合 (V4.00)

- パワードスピーカーシステム DZR-D シリーズ、パワードサブウーファーシステム DXS-XLF-D シリーズと TF シリーズが接続されている状態で DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのユニット ID を複数回変更すると、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズが TF シリーズの画面に表示されなくなる場合があります。TF シリーズまたは DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズの電源を入れなおすと、再度表示されるようになります。

- TF シリーズの電源を入れたときや本体のファームウェアをアップデートしたときに、Dante ネットワークに一瞬ノイズが発生する場合があります。TF シリーズの電源を入れてから出力機器の電源を入れてください。
- NY64-D の Transmit チャンネルにラベルが付いていると、下記の不具合が発生する場合があります。
 - DDM サーバーに接続したときや、ワードクロックを変更したときに「Dante Setting Error! Please Restart the Console.」というメッセージが表示される。
 - DDM ドメインへの登録/登録解除を繰り返した機器が TF シリーズに認識されなくなる。

これらの現象は、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

- Dante ネットワークに接続されている機器が多い場合、機器の電源を一斉に入れたときに、接続されている機器が TF シリーズに認識されなくなる場合があります。TF シリーズの電源を入れなおすと認識されるようになります。

運用上の注意

- フローの多い Dante ネットワークに TF シリーズのネットワーク端子を接続して、NETWORK 画面を操作したり Refresh ボタンを押したりすると、TF シリーズの画面がフリーズする場合があります。TF シリーズのネットワーク端子を Dante ネットワークに接続しないでください。画面のフリーズは、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

V4.02

不具合修正 (V4.02)

- TF5,TF3,TF1,TF-RACK V4.00,V4.01 および TF Editor V4.00 において、設定ファイル(.TFF ファイル)をロードしたとき、設定にかかわらず Recall Safe の挙動が更新されない問題を修正しました。

不具合修正 (V4.01)

- TF-RACK において、[TAP]キーによるディレイタイム設定ができない不具合を修正しました。

機能追加 (V4.00)

- OVERVIEW 画面に Selected Channel セクションを追加しました。各チャンネルの主な音作りをひとつの画面でできるようになりました。Selected Channel セクションを表示するには、PREFERENCE 画面の[HOME] Key で「Selected Channel」をオンにしてください。
- シーンの FADE TIME 機能を追加しました。
シーンリコール中に、TF5/TF3/TF1 のフェーダーや画面の挙動が内部数値の遷移に追従しないことがあります。実際の音声出力(音量)は内部数値に追従して連続的に変化します。
- チャンネルを自由にアサインできるミュートグループ 3~6 を追加しました。チャンネルのアサインは SETUP 画面→MUTE GROUP ASSIGN 画面、または各チャンネルの ASSIGN 画面で設定します。
- リコールセーフパラメーターの「On」と「Fader」を個別に設定できるようになりました。
- SEND FROM 画面のメニューに Copy/Paste を追加しました。選択している AUX/MATRIX/SUB チャンネルの SEND レベルをコピー/ペーストします。
- AUX/MATRIX/SUB チャンネルのメニューに、CH Copy with Sends/CH Paste with Sends を追加しました。
- AUTOMIXER 画面にグループバイパス機能を追加しました。
- PREFERENCE 画面に下記の機能を追加しました。
 - Auto Channel Select セクションに「[SEND SEL]>[CUE] Link」を追加しました。オフに設定すると、SENDS ON FADER キーの選択にセンドマスターの CUE が追従する従来の機能が無効になります。
 - Key Function セクションを追加しました。
 - [HOME] Key に「Selected Channel」を追加しました。
- USER DEFINED KEYS と FOOT SWITCH に割り当てできる機能を追加しました。
 - Automixer の Group Bypass と各チャンネルのオン/オフ
 - Mute Master の MUTE GROUP3~6
- ST IN 1/2 チャンネルに、チャンネルディレイを追加しました。
- クイックコンフィグ機能で接続された DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのミュート操作機能を SLOT SETUP 画面に追加しました。この機能を使用するために、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D

シリーズは V1.1.2 以降のバージョンをご使用ください。また、同じ Dante ネットワークに接続する TF はすべて V4.00 以降にバージョンアップしてください。

- EQ と GEQ で、[SHIFT]キーを長押しすると、選択中のバンドのゲインがノミナル(0.0dB)になる機能を追加しました。
- GEQ で、[TOUCH AND TURN]ノブの操作対象を、ゲインと周波数とで交互に切り替える機能を追加しました。[SHIFT]キーを押す、または[TOUCH AND TURN]ノブを押すことで切り替えできます。
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また一部データを変更しました。本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

仕様変更 (V4.00)

- ミュートグループマスターがオンのときに、トップパネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。
- RECORDER 画面で、同じフォルダー内に置けるオーディオファイル数の制限を 150 ファイルに変更しました。フォルダーも含めてファイル数が 150 を超えると、超えた分のフォルダーやファイルはリストに表示されません。150 ファイル以内になるようフォルダー分けをしてご使用ください。

既知の不具合 (V4.00)

- パワードスピーカーシステム DZR-D シリーズ、パワードサブウーファーシステム DXS-XLF-D シリーズと TF シリーズが接続されている状態で DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのユニット ID を複数回変更すると、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズが TF シリーズの画面に表示されなくなる場合があります。TF シリーズまたは DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズの電源を入れなおすと、再度表示されるようになります。
- TF シリーズの電源を入れたときや本体のファームウェアをアップデートしたときに、Dante ネットワークに一瞬ノイズが発生する場合があります。TF シリーズの電源を入れてから出力機器の電源を入れてください。
- NY64-D の Transmit チャンネルにラベルが付いていると、下記の不具合が発生する場合があります。
 - DDM サーバーに接続したときや、ワードクロックを変更したときに「Dante Setting Error! Please Restart the Console.」というメッセージが表示される。
 - DDM ドメインへの登録/登録解除を繰り返した機器が TF シリーズに認識されなくなる。

これらの現象は、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

- Dante ネットワークに接続されている機器が多い場合、機器の電源を一斉に入れたときに、接続されている機器が TF シリーズに認識されなくなる場合があります。TF シリーズの電源を入れなおすと認識されるようになります。

運用上の注意

- フローの多い Dante ネットワークに TF シリーズのネットワーク端子を接続して、NETWORK 画面を操作したり Refresh ボタンを押したりすると、TF シリーズの画面がフリーズする場合があります。TF シリーズのネットワーク端子を Dante ネットワークに接続しないでください。画面のフリーズは、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

V4.01

不具合修正 (V4.01)

- TF-RACK において、[TAP]キーによるディレイタイム設定ができない不具合を修正しました。

機能追加 (V4.00)

- OVERVIEW 画面に Selected Channel セクションを追加しました。各チャンネルの主な音作りをひとつの画面でできるようになりました。Selected Channel セクションを表示するには、PREFERENCE 画面の[HOME] Key で「Selected Channel」をオンにしてください。
- シーンの FADE TIME 機能を追加しました。
シーンリコール中に、TF5/TF3/TF1 のフェーダーや画面の挙動が内部数値の遷移に追従しないことがあります。実際の音声出力(音量)は内部数値に追従して連続的に変化します。
- チャンネルを自由にアサインできるミュートグループ 3~6 を追加しました。チャンネルのアサインは SETUP 画面→MUTE GROUP ASSIGN 画面、または各チャンネルの ASSIGN 画面で設定します。
- リコールセーフパラメーターの「On」と「Fader」を個別に設定できるようになりました。
- SEND FROM 画面のメニューに Copy/Paste を追加しました。選択している AUX/MATRIX/SUB チャンネルの SEND レベルをコピー/ペーストします。
- AUX/MATRIX/SUB チャンネルのメニューに、CH Copy with Sends/CH Paste with Sends を追加しました。
- AUTOMIXER 画面にグループバイパス機能を追加しました。
- PREFERENCE 画面に下記の機能を追加しました。

- Auto Channel Select セクションに「[SEND SEL]>[CUE] Link」を追加しました。オフに設定すると、SENDS ON FADER キーの選択にセンドマスターの CUE が追従する従来の機能が無効になります。
- Key Function セクションを追加しました。
- [HOME] Key に「Selected Channel」を追加しました。
- USER DEFINED KEYS と FOOT SWITCH に割り当てできる機能を追加しました。
 - Automixer の Group Bypass と各チャンネルのオン/オフ
 - Mute Master の MUTE GROUP3~6
- ST IN 1/2 チャンネルに、チャンネルディレイを追加しました。
- クイックコンフィグ機能で接続された DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのミュート操作機能を SLOT SETUP 画面に追加しました。この機能を使用するために、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズは V1.1.2 以降のバージョンをご使用ください。また、同じ Dante ネットワークに接続する TF はすべて V4.00 以降にバージョンアップしてください。
- EQ と GEQ で、[SHIFT]キーを長押しすると、選択中のバンドのゲインがノミナル(0.0dB)になる機能を追加しました。
- GEQ で、[TOUCH AND TURN]ノブの操作対象を、ゲインと周波数とで交互に切り替える機能を追加しました。[SHIFT]キーを押す、または[TOUCH AND TURN]ノブを押すことで切り替えできます。
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また一部データを変更しました。本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

仕様変更 (V4.00)

- ミュートグループマスターがオンのときに、トップパネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。
- RECORDER 画面で、同じフォルダー内に置けるオーディオファイル数の制限を 150 ファイルに変更しました。フォルダーも含めてファイル数が 150 を超えると、超えた分のフォルダーやファイルはリストに表示されません。150 ファイル以内になるようフォルダー分けをしてご使用ください。

既知の不具合 (V4.00)

- パワードスピーカーシステム DZR-D シリーズ、パワードサブウーファーシステム DXS-XLF-D シリーズと TF シリーズが接続されている状態で DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのユニット ID を複数回変更すると、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズが TF シリーズの画面に表示されなくなる場合があります。TF シリーズまたは DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズの電源を入れなおすと、再度表示されるようになります。

- TF シリーズの電源を入れたときや本体のファームウェアをアップデートしたときに、Dante ネットワークに一瞬ノイズが発生する場合があります。TF シリーズの電源を入れてから出力機器の電源を入れてください。
- NY64-D の Transmit チャンネルにラベルが付いていると、下記の不具合が発生する場合があります。
 - DDM サーバーに接続したときや、ワードクロックを変更したときに「Dante Setting Error! Please Restart the Console.」というメッセージが表示される。
 - DDM ドメインへの登録/登録解除を繰り返した機器が TF シリーズに認識されなくなる。

これらの現象は、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

- Dante ネットワークに接続されている機器が多い場合、機器の電源を一斉に入れたときに、接続されている機器が TF シリーズに認識されなくなる場合があります。TF シリーズの電源を入れなおすと認識されるようになります。

運用上の注意

- フローの多い Dante ネットワークに TF シリーズのネットワーク端子を接続して、NETWORK 画面を操作したり Refresh ボタンを押したりすると、TF シリーズの画面がフリーズする場合があります。TF シリーズのネットワーク端子を Dante ネットワークに接続しないでください。画面のフリーズは、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

V4.00

機能追加 (V4.00)

- OVERVIEW 画面に Selected Channel セクションを追加しました。各チャンネルの主な音作りをひとつの画面でできるようになりました。Selected Channel セクションを表示するには、PREFERENCE 画面の[HOME] Key で「Selected Channel」をオンにしてください。
- シーンの FADE TIME 機能を追加しました。
シーンリコール中に、TF5/TF3/TF1 のフェーダーや画面の挙動が内部数値の遷移に追従しないことがあります。実際の音声出力(音量)は内部数値に追従して連続的に変化します。
- チャンネルを自由にアサインできるミュートグループ 3~6 を追加しました。チャンネルのアサインは SETUP 画面→MUTE GROUP ASSIGN 画面、または各チャンネルの ASSIGN 画面で設定します。
- リコールセーフパラメーターの「On」と「Fader」を個別に設定できるようになりました。

- SEND FROM 画面のメニューに Copy/Paste を追加しました。選択している AUX/MATRIX/SUB チャンネルの SEND レベルをコピー/ペーストします。
- AUX/MATRIX/SUB チャンネルのメニューに、CH Copy with Sends/CH Paste with Sends を追加しました。
- AUTOMIXER 画面にグループバイパス機能を追加しました。
- PREFERENCE 画面に下記の機能を追加しました。
 - Auto Channel Select セクションに「[SEND SEL]>[CUE] Link」を追加しました。オフに設定すると、SENDS ON FADER キーの選択にセンドマスターの CUE が追従する従来の機能が無効になります。
 - Key Function セクションを追加しました。
 - [HOME] Key に「Selected Channel」を追加しました。
- USER DEFINED KEYS と FOOT SWITCH に割り当てできる機能を追加しました。
 - Automixer の Group Bypass と各チャンネルのオン/オフ
 - Mute Master の MUTE GROUP3~6
- ST IN 1/2 チャンネルに、チャンネルディレイを追加しました。
- クイックコンフィグ機能で接続された DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのミュート操作機能を SLOT SETUP 画面に追加しました。この機能を使用するために、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズは V1.1.2 以降のバージョンをご使用ください。また、同じ Dante ネットワークに接続する TF はすべて V4.0 にバージョンアップしてください。
- EQ と GEQ で、[SHIFT]キーを長押しすると、選択中のバンドのゲインがノミナル(0.0dB)になる機能を追加しました。
- GEQ で、[TOUCH AND TURN]ノブの操作対象を、ゲインと周波数とで交互に切り替える機能を追加しました。[SHIFT]キーを押す、または[TOUCH AND TURN]ノブを押すことで切り替えできます。
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また一部データを変更しました。本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

仕様変更 (V4.00)

- ミュートグループマスターがオンのときに、トップパネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。
- RECORDER 画面で、同じフォルダー内に置けるオーディオファイル数の制限を 150 ファイルに変更しました。フォルダーも含めてファイル数が 150 を超えると、超えた分のフォルダーやファイルはリストに表示されません。150 ファイル以内になるようフォルダー分けをしてご使用ください。

既知の不具合 (V4.00)

- TF-RACK V4.00 において、[TAP]キーによるディレイタイム設定ができません。この不具合は次回以降リリースのファームウェアで修正予定です。
- パワードスピーカーシステム DZR-D シリーズ、パワードサブウーファーシステム DXS-XLF-D シリーズと TF シリーズが接続されている状態で DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズのユニット ID を複数回変更すると、DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズが TF シリーズの画面に表示されなくなる場合があります。TF シリーズまたは DZR-D シリーズ/DXS-XLF-D シリーズの電源を入れなおすと、再度表示されるようになります。
- TF シリーズの電源を入れたときや本体のファームウェアをアップデートしたときに、Dante ネットワークに一瞬ノイズが発生する場合があります。TF シリーズの電源を入れてから出力機器の電源を入れてください。
- NY64-D の Transmit チャンネルにラベルが付いていると、下記の不具合が発生する場合があります。
 - DDM サーバーに接続したときや、ワードクロックを変更したときに「Dante Setting Error! Please Restart the Console.」というメッセージが表示される。
 - DDM ドメインへの登録/登録解除を繰り返した機器が TF シリーズに認識されなくなる。

これらの現象は、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

- Dante ネットワークに接続されている機器が多い場合、機器の電源を一斉に入れたときに、接続されている機器が TF シリーズに認識されなくなる場合があります。TF シリーズの電源を入れなおすと認識されるようになります。

運用上の注意

- フローの多い Dante ネットワークに TF シリーズのネットワーク端子を接続して、NETWORK 画面を操作したり Refresh ボタンを押したりすると、TF シリーズの画面がフリーズする場合があります。TF シリーズのネットワーク端子を Dante ネットワークに接続しないでください。画面のフリーズは、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

V3.60

不具合修正 (V3.60)

- クイックコンフィグ機能がオンのとき、NY64-D の「SLOT IN 63/64」(TF シリーズの ST IN 2 の Input Select) にパッチできない不具合を修正しました。

- ミュートがオンのときにカスタムフェーダーバンクに設定した AUX チャンネルの[ON]キーが正しく動作しない不具合を修正しました。
- Rio3224-D2 や Rio1608-D2 を Dante ネットワーク経由で接続したときに、「Dante Version Mismatch」というメッセージが表示される不具合を修正しました。
- TF の Dante Port(NY64-D)の IP アドレスを DHCP または固定 IP で設定するとき、サブネットマスクの各オクテットに 255 か 0 以外の値(例 255.255.255.128)を設定すると、TF から Tio1608-D の HA コントロールができなくなる不具合を修正しました。

機能追加 (V3.60)

- クイックコンフィグ機能で、パワードスピーカーシステム DZR シリーズ、パワードサブウーファースystem DXS-XLF シリーズの Dante モデルを自動的に Dante 接続できるようになりました。
- Dante Domain Manager (DDM)に対応しました。
TF シリーズが Dante Domain Manager によってドメインに登録されると、クイックコンフィグはオフになります。
- PREFERENCE 画面に「RTA Offset」機能を追加しました。これによって、EQ 画面、GEQ 画面の RTA の感度を調整できるようになりました。
- [USER DEFINED KNOBS]で操作できる機能に「RTA Offset」を追加しました。
- NETWORK 画面に DHCP からアドレスを再取得できる「Refresh」ボタンを追加しました。

仕様変更 (V3.60)

- 拡張スロットに挿入した NY64-D の Dante Channel Label がすべて空欄の場合、接続されている TF のチャンネル番号などが自動で割り振られる仕様に変更しました。
- Initialize NY64-D 画面で、拡張スロットに挿入した NY64-D の設定を初期化した場合、Dante Channel Label に接続されている TF のチャンネル番号などが自動で割り振られる仕様に変更しました。
- [USER DEFINED KEYS]に「SCENE Store」を割り当てたとき、TITLE 入力ダイアログが表示されている状態で操作をすると、「OK」ボタンを押したことになる仕様に変更しました。

既知の不具合 (V3.60)

- TF シリーズの電源を入れたとき、Dante ネットワークに一瞬ノイズが発生する場合があります。TF シリーズの電源を入れてから出力機器の電源を入れてください。
- NY64-D の Transmit チャンネルにラベルが付いていると、下記の不具合が発生する場合があります。

- DDM サーバーに接続したときや、サンプリングレート設定を変更したときに「Dante Setting Error! Please Restart the Console.」というメッセージが表示される。
- DDM ドメインへの登録/登録解除を繰り返した機器が TF シリーズに認識されなくなる。

これらの現象は、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

- Dante ネットワークに接続されている機器が多い場合、機器の電源を一斉に入れたときに、接続されている機器が TF シリーズに認識されなくなることがあります。TF シリーズの電源を入れなおすと認識されるようになります。

運用上の注意

- フローの多い Dante ネットワークに TF シリーズのネットワーク端子を接続して、NETWORK 画面でネットワークの設定を変更したり Refresh ボタンを押したりすると、TF シリーズの画面がフリーズする場合があります。TF シリーズのネットワーク端子を Dante ネットワークに接続しないでください。画面のフリーズは、TF シリーズの電源を入れなおすと解消されます。

V3.51-2

仕様対応 (V3.51-2)

- Dante(NY64-D)の最新ハードウェアにも対応するため、NY64-D のファームウェアを 3.10.32.2-4.0.35.1-1.3.4 にしました。TF シリーズ本体のファームウェアは変更ありません。そのため、現在 V3.51 をご使用の場合はアップデートする必要はございません。バージョン互換については互換表をご確認ください。

不具合修正 (V3.51)

- V3.50 で、SENDS ON FADER セクションの FX1 または FX2 キーを押した後に、続けていずれかの AUX バスの SENDS ON FADER キーを押すと、実際の AUX バスのマスターレベル値にかかわらず、MASTER セクションのフェーダー位置のみ 0dB(ノミナル)位置のまま維持してしまう不具合を修正しました。

機能追加 (V3.50)

- CH1~CH8 に Dugan Automixer を追加しました。
V3.11 以前の TF シリーズで保存されたシーンには、Automixer に関連するパラメーターが含まれていません。そのため、リコールしてもパラメーター値が変更されません。

- AUX センドを Pre に設定したチャンネルのセンドポイントを、Pre EQ か Pre Fader かで選択できる機能を追加しました。
- OUTPUT チャンネルの Monitor Delay と FX の OUTPUT DELAY にある Delay Time パラメータの設定単位に、「フレーム(frame)」を追加しました。
- MONITOR/CUE 画面に PFL Trim の設定を追加しました。
- MATRIX1/2 バス、MATRIX3/4 バスの組み合わせでステレオペアの設定を追加しました。
- RECORDER 画面で、録音ソース選択に MTRX1/2、MTRX3/4 を追加しました。

仕様変更 (V3.50)

- CUE の動作モードが「Last CUE」のときも、「Mix CUE」のときと同様に CUE スタック*で動作するように変更しました。
- トップパネルの MUTE セクションの[INPUT]キー/[FX]キーがオンの場合に、パネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。

*CUE スタックとは、優先順位の低いチャンネルの CUE をオフにすることで、優先順位の高いチャンネルの CUE が復活する動作です。

V3.11 以前: [ON]キーを押すたびに、ミュートの一時解除をオン/オフしていた
V3.50 以降: [ON]キーを押すと、ミュートグループから外れて動作する

不具合修正 (V3.50)

- V3.10 で、HA リモート対象の機器以外の Dante 機器が TF シリーズのインプットチャンネルにパッチされている場合、該当チャンネルの INPUT 画面に本来は表示されない Virtual インジケータが表示されることがある不具合を修正しました。

V3.50

機能追加

- CH1~CH8 に Dugan Automixer を追加しました。
V3.11 以前の TF シリーズで保存されたシーンには、Automixer に関連するパラメーターが含まれていません。そのため、リコールしてもパラメーター値が変更されません。
- AUX センドを Pre に設定したチャンネルのセンドポイントを、Pre EQ か Pre Fader かで選択できる機能を追加しました。
- OUTPUT チャンネルの Monitor Delay と FX の OUTPUT DELAY にある Delay Time パラメータの設定単位に、「フレーム(frame)」を追加しました。
- MONITOR/CUE 画面に PFL Trim の設定を追加しました。

- MATRIX1/2 バス、MATRIX3/4 バスの組み合わせでステレオペアの設定を追加しました。
- RECORDER 画面で、録音ソース選択に MTRX1/2、MTRX3/4 を追加しました。

仕様変更

- CUE の動作モードが「Last CUE」のときも、「Mix CUE」のときと同様に CUE スタック*で動作するように変更しました。
*CUE スタックとは、優先順位の低いチャンネルの CUE をオフにすることで、優先順位の高いチャンネルの CUE が復活する動作です。
- トップパネルの MUTE セクションの[INPUT]キー/[FX]キーがオンの場合に、パネルの[ON]キーを操作したときの挙動を変更しました。
V3.11 以前:[ON]キーを押すたびに、ミュートの一時解除をオン/オフしていた
V3.50 以降:[ON]キーを押すと、ミュートグループから外れて動作する

不具合修正

- V3.10 で、HA リモート対象の機器以外の Dante 機器が TF シリーズのインプットチャンネルにパッチされている場合、該当チャンネルの INPUT 画面に本来は表示されない Virtual インジケータが表示されることがある不具合を修正しました。

V3.11

不具合修正 (V3.11)

- V3.10 で、TIME 画面の OK ボタンをタッチすると、パネル上のキーやフェーダーなどの操作ができなくなり、メーター表示が止まる不具合を修正しました。

機能追加 (V3.10)

- Dante Device Lock に対応しました。
- オーディオネットワークの相互接続規格「AES67」に対応しました。

NOTE

これらの新機能を使用するには、NY64-D のファームウェアを「3.10.0.19-4.0.3.1-1.3.4」(tf_firm310.zip に同梱)以降にアップデートしてください。

不具合修正 (V3.10)

- PREFERENCE 画面の Auto CH Select セクションにある「INPUT」がオンになっているときに、DCA グループチャンネルの[ON]キーを 2 回押さないと DCA がオンにならない不具合を修正しました。

V3.10

機能追加

- Dante Device Lock に対応しました。
- オーディオネットワークの相互接続規格「AES67」に対応しました。

NOTE

これらの新機能を使用するには、NY64-D のファームウェアを「3.10.0.19-4.0.3.1-1.3.4」
(tf_firm310.zip に同梱)以降にアップデートしてください。

不具合修正

- PREFERENCE 画面の Auto CH Select セクションにある「INPUT」がオンになっているときに、DCA グループチャンネルの[ON]キーを 2 回押さないと DCA がオンにならない不具合を修正しました。

V3.01

機能追加

- ユーザーアカウントによるアクセス制限の機能を追加しました。
- OVERVIEW 画面に FADER セクションを追加しました。
FADER セクションの表示は PREFERENCE 画面から設定します。詳細は TF V3 リファレンスマニュアルをご参照ください。
- [USER DEFINED KEYS]で操作できる機能に、「EQ Band Select」を追加しました。
- [USER DEFINED KNOBS]で操作できる機能に下記を追加しました。
Selected CH: EQ Band Select
Selected CH: Digital Gain
Selected CH: Send Level (FX, AUX, SUB)
CH Select
CH Level
- BRIGHTNESS 画面に「Power Saving Mode」を追加しました。
無操作で設定した時間を経過すると、画面やインジケータを暗くする機能です。
- STEREO/SUB Level Link に、差分を維持したままリンク動作する機能を追加しました。

【注意】

差分にあたるオフセット値もシーンメモリーに保存されます。V2.50 以前の TF シリーズで保存されたシーンにはオフセット値が含まれていないので、そのシーンをリコールしてもオフセット値はリコール前のまま変更されません。

- AUX9/10~AUX19/20 から SUB バスへのセンドを追加しました。
- FX1/FX2 チャンネルに SEND FROM 画面を追加しました。
- ツールバーのメーターに Matrix1-4 を追加しました。
- チャンネルライブラリーの初期 Preset に、新規 Preset を追加しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。

仕様変更(V3.00)

- エフェクト「Multi Band Comp」に、Low/Mid/High のスレッショルドの差分を維持したままリンク動作する機能を追加しました。また、急激な音量変化を防ぐために、Make Up パラメーターを廃止しました。
- ステレオリンクしたチャンネルの Input Gain の相対リンク動作を、最大値/最小値になっても差分を保持する仕様に変更しました。
- SYSTEM SETUP 画面と USER SETUP 画面を統合して、SETUP 画面に変更しました。
- メンテナンス画面に Initialize NY64-D 画面を追加しました。
V2.50 以前では Initialize All Memory の機能に含まれていましたが、V3.0 から独立した機能に仕様変更しました。
- TF シリーズの設定ファイル(コンソールファイル)に含まれているチャンネル選択、フェーダーバンク選択、SENDS ON FADER の状態をロードしない仕様に変更しました。
- USER DEFINED KEY に「Monitor Source Select」を割り当てたときの動作を、選択だけの動作から、選択とオフのトグル動作に変更しました。

仕様変更(V3.01)

- (TF-RACK のみ) プリセットシーンの OMNI OUT Patch の設定を、リアパネルの印刷に合わせて ST L が OMNI 7、ST R が OMNI 8 となるように変更しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

動作改善

- 内蔵 HA のゲイン操作で、6dB ごとに発生するミュート時の音量変化のカーブを改善しました。
- モーターフェーダーの動作を改善しました。

不具合修正(V3.00)

- HA Control をオンにした TF シリーズ本体が同一の Dante ネットワークに複数ある場合、ステレオリンクが原因で、Tio1608-D の HA ゲインのコントロールにループが発生することがある不具合を修正しました。
- 操作手順によって TF シリーズの設定ファイル(コンソールファイル)がロードできなくなる可能性がある不具合を修正しました。
- SEND FROM 画面のコンテキストメニューで「All Nominal」を実行したときに、Send Pan がセンターになってしまう不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

不具合修正(V3.01)

- ステレオリンクを設定していないチャンネルのアナログゲイン(A.Gain)を操作したときに、本体の同じ INPUT 端子を共有する別のチャンネル(TF5: CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1/TF-RACK:CH1-16 と CH17-32)がステレオリンク設定されていると、入力ソースが一致していなくても、該当する隣のチャンネルとリンク動作してしまう不具合を修正しました。
- エフェクト「SYMPHONIC」が V3.00 で 1IN/2OUT で動作していた不具合を 2IN/2OUT で動作するように修正しました。
- (TF1、TF-RACK のみ) クイックコンフィグ機能で、操作手順によっては UNIT ID3 の Tio1608-D のミュートが解除されなくなるという不具合を修正しました。

既知の不具合

- TF シリーズの HA コントロール設定がオフの状態ですべて TF シリーズの設定ファイル(拡張子 .tff)をロードすると、設定ファイルの内容によっては「Two or more HA Controllers may cause conflict.」というダイアログが表示される場合があります。この場合、ロード中を表示するプログレスバーは消えますが、ファイルのロードは正常に行なわれます。

V3.00

機能追加

- ユーザーアカウントによるアクセス制限の機能を追加しました。
- OVERVIEW 画面に FADER セクションを追加しました。
FADER セクションの表示は PREFERENCE 画面から設定します。詳細は TF V3 リファレンスマニュアルをご参照ください。
- [USER DEFINED KEYS]で操作できる機能に、「EQ Band Select」を追加しました。

- [USER DEFINED KNOBS]で操作できる機能に下記を追加しました。
Selected CH: EQ Band Select
Selected CH: Digital Gain
Selected CH: Send Level (FX, AUX, SUB)
CH Select
CH Level
- BRIGHTNESS 画面に「Power Saving Mode」を追加しました。
無操作で設定した時間を経過すると、画面やインジケータを暗くする機能です。
- STEREO/SUB Level Link に、差分を維持したままリンク動作する機能を追加しました。
【注意】
差分にあたるオフセット値もシーンメモリーに保存されます。V2.50 以前の TF シリーズで保存されたシーンにはオフセット値が含まれていませんので、そのシーンをリコールしてもオフセット値はリコール前のまま変更されません。
- AUX9/10～AUX19/20 から SUB バスへのセンドを追加しました。
- FX1/FX2 チャンネルに SEND FROM 画面を追加しました。
- ツールバーのメーターに Matrix1-4 を追加しました。
- チャンネルライブラリーの初期 Preset に、新規 Preset を追加しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。

仕様変更

- エフェクト「Multi Band Comp」に、Low/Mid/High のスレッショルドの差分を維持したままリンク動作する機能を追加しました。また、急激な音量変化を防ぐために、Make Up パラメーターを廃止しました。
- ステレオリンクしたチャンネルの Input Gain の相対リンク動作を、最大値/最小値になっても差分を保持する仕様に変更しました。
- SYSTEM SETUP 画面と USER SETUP 画面を統合して、SETUP 画面に変更しました。
- メンテナンス画面に Initialize NY64-D 画面を追加しました。
V2.50 以前では Initialize All Memory の機能に含まれていましたが、V3.0 から独立した機能に仕様変更しました。
- TF シリーズの設定ファイル(コンソールファイル)に含まれているチャンネル選択、フェーダーバンク選択、SENDS ON FADER の状態をロードしない仕様に変更しました。
- USER DEFINED KEY に「Monitor Source Select」を割り当てたときの動作を、選択だけの動作から、選択とオフのトグル動作に変更しました。

動作改善

- 内蔵 HA のゲイン操作で、6dB ごとに発生するミュート時の音量変化のカーブを改善しました。
- モーターフェーダーの動作を改善しました。

不具合修正

- HA Control をオンにした TF シリーズ本体が同一の Dante ネットワークに複数ある場合、ステレオリンクが原因で、Tio1608-D の HA ゲインのコントロールにループが発生することがある不具合を修正しました。
- 操作手順によって TF シリーズの設定ファイル(コンソールファイル)がロードできなくなることがある不具合を修正しました。
- SEND FROM 画面のコンテキストメニューで「All Nominal」を実行したときに、Send Pan がセンターになってしまう不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- TF シリーズの HA コントロール設定がオフの状態では TF シリーズの設定ファイル(拡張子.tff)をロードすると、設定ファイルの内容によっては「Two or more HA Controllers may cause conflict.」というダイアログが表示される場合があります。この場合、ロード中を表示するプログレスバーは消えますが、ファイルのロードは正常に行なわれます。
- ステレオリンクを設定していないチャンネルのアナログゲイン(A.Gain)を操作したときに、本体の同じ INPUT 端子を共有する別のチャンネル(TF5: CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1/TF-RACK:CH1-16 と CH17-32)がステレオリンク設定されていると、入力ソースが一致していなくても、該当する隣のチャンネルとリンク動作してしまう不具合があります。本体の INPUT 端子を使用している場合、INPUT 端子を共有する別のチャンネルは入力ソースにかかわらずペア設定をしないようご注意ください。(V2.50 ではこの不具合は発生しません。)

V2.50-2

機能追加

- 4 本の MATRIX バス/MATRIX チャンネルを追加しました。
MATRIX バスには、AUX1-20, STEREO, SUB チャンネルのポスト ON からの信号をセンドできます。
MATRIX チャンネルには、4 バンド EQ、DELAY が搭載されています。
詳細は TF シリーズのリファレンスマニュアルをご参照ください。

注意

V2.01 以前の TF シリーズで保存されたシーンには、MATRIX に関連するパラメーターが含まれていません。そのため、リコールしてもパラメーター値が変更されません。

- エフェクトタイプに、パラメーターがディレイタイムだけのシンプルな「Output Delay」を追加しました。
- オプション入出力カード NY64-D のファームウェアをアップデートする機能を追加しました。
詳細はアップデートガイドをご参照ください。

仕様変更

- FX 画面で Default メニューを実行したときに、現在選択しているエフェクトタイプの初期値にセットされるように仕様を変更しました。

動作改善

- CH NAME ディスプレイの輝度調整範囲を改善しました。(BRIGHTNESS 画面)
- HA コントロールができる Dante I/O デバイスの台数制限を、3 台から 8 台に拡大しました。
(UNIT ID1~3 に設定した Tio1608-D は、接続されているだけで台数にカウントされます。)
また、上記を含むヤマハ製 PA 機器と R Remote などの PA 製品用アプリケーションの接続台数制限を 20 台から 24 台に拡大しました。

注意

NY64-D のファームウェアを「3.8.0.24 3.5.1.8 1.2.8」以降にアップデートする必要があります。

不具合修正

- TF シリーズ本体と TF Editor や TF StageMix を接続して使用しているときに、GEQ(Flex12)の Compare メニューや Paste メニューを実行すると、TF Editor や TF StageMix 側の状態と TF シリーズ本体の状態が一致しないことがある不具合を修正しました。
- チャンネルの GATE で、Hold パラメーターを操作したときに GATE が開いてしまうことがある不具合を修正しました。
- LIBRARY 画面で、同じライブラリーの上書き保存(Store)と編集(Edit)をごく短い時間で連続して実行すると、シーンがリコールできなくなったり、SAVE/LOAD 画面にファイルが表示されなくなったりすることがある不具合を修正しました。
- ファイルロードのカスタム機能で、TF シリーズの V1.xx で保存したファイルの Recall Safe, User Defined Controls, Custom Fader Bank の各設定が読み込めない不具合を修正しました。
- エフェクト「DUAL PITCH」のピッチ 1 のパラメーター「Pitch 1」「Fine 1」を 0 に設定すると、ピッチ 2 の音程変化もなくなってしまう不具合を修正しました。

- SLOT SETUP の HA コントロールがオフの状態、メンテナンス画面から初期化を行なったときに、「Two or more HA Controllers may cause conflict」というダイアログが表示されて、初期化のダイアログが消える不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- TF シリーズの HA コントロール設定がオフの状態、TF シリーズの設定ファイル(拡張子.tff)をロードすると、設定ファイルの内容によっては「Two or more HA Controllers may cause conflict.」というダイアログが表示される場合があります。この場合、ロード中を表示するプログレスバーは消えますが、ファイルのロードは正常に行なわれます。

V2.01

機能追加

- Dante 入出力用のオプションカード NY64-D に対応しました。NY64-D 経由で、Tio1608-D や R シリーズなどの Dante 機器と接続できるようになりました。Tio1608-D や R シリーズでは HA コントロールもできます。

※ご注意

- 本バージョンでは、同一ネットワーク上で接続できる機器に下記の制限があります。ヤマハ製 PA 機器や R Remote などのアプリケーションは合計 20 台まで接続できます。そのうち、HA コントロールできる Dante I/O デバイスは 3 台までです。UNIT ID を 1~3 に設定した Tio1608-D は、接続しているだけでこの 3 台に含まれます。
- 本バージョンでは、TF シリーズの「Quick Config」をオフにして R シリーズ V3.11 を NY64-D に Dante Controller でパッチすれば、R シリーズの音声および HA コントロールの通信が可能になります。ただし、CL/QL シリーズと同じ R シリーズを共有する場合は、TF シリーズの「HA Control」オプションをオフにしてからパッチし、HA コントロールは CL/QL シリーズから行なうことをおすすめします。
- エフェクトタイプに「Ping Pong Delay」、「Dual Pitch」を追加しました。
- GEQ のゲイン設定を、フェーダーで操作できる機能を追加しました。
- TF シリーズの設定ファイル内の設定を部分的に選択してロードできる機能「LOAD SELECT」を追加しました。
- AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でノミナル(0 dB)に設定する機能「All Nominal」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。

- AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でチャンネルフェーダーの設定値と同じにする機能「Dup.STEREO」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。
- [TAP]キーの点滅を無効にできる機能「[TAP] Key Blink」を PREFERENCE 画面に追加しました。
- ST IN1/2 や FX RTN 1/2 チャンネルから SUB バスへのセンドができるようになりました。

※ご注意

このパラメーターが存在していないファームウェア V1.x で作成したシーンやチャンネルライブラリーをリコールしたときは、このパラメーターは変更されません。

- HELP 画面の表示言語を追加しました。追加言語は下記のとおりです。
 - Arabic : アラビア語
 - Croatian : クロアチア語
 - Czech : チェコ語
 - Dutch : オランダ語
 - Hindi : ヒンディー語
 - Hungarian : ハンガリー語
 - Persian : ペルシャ語
 - Polish : ポーランド語
 - Romanian : ルーマニア語
 - Serbian : セルビア語
 - Slovenian : スロベニア語
 - Tagalog : タガログ語
 - Turkish : トルコ語
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また、一部のプリセットデータを更新しました。
この変更は、本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると反映されます。

仕様変更

- ステレオリンクしたモノラルチャンネルのチャンネルネームが連動しない仕様に変更しました。ただし、ST IN や AUX9/10 など、常にステレオで動作するチャンネルは連動します。
- リバース系や ER 系のエフェクトを FX1/2、InsFX1~6 のすべてで使用できるようになりました。

動作改善

- [SEL]キーを使ったステレオリンク操作時の動作を、誤操作しにくいタイミングに改善しました。ステレオリンクしたいチャンネルの[SEL]キーを同時に押さずに 1 秒ほど時間を開けて順番に押し、2 つのボタンをそのまま 2 秒以上押し続けてください。
- ライブラリー画面の使い勝手を向上しました。
リコールできないライブラリーが表示されなくなりました。
チャンネルタイプの異なるプリセットから、EQ、COMP、FX などのモジュールを個別にリコールできるようになりました。
- ネットワーク端子に何も接続していない状態でも、ネットワークの設定ができるようになりました。
- ネットワーク設定が DHCP のときに、ネットワーク内に DHCP サーバーが存在していない状態でも、TF Editor とメーターのデータ通信ができるようになりました。
- TF Editor や StageMix でシーンのストアやリコールをしたときに、TF シリーズ本体に表示されるシーン番号やタイトルも追従するようになりました。
- 録音の一時停止ができるようになりました。

不具合修正 (V2.00)

- チャンネルリンクが設定されている状態で入力ソースを「INPUT」に設定してアナログゲインを操作すると、同じ INPUT 端子の入力信号を使うチャンネル(TF5:CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1:CH1-16 と CH17-32)のアナログゲインが、入力ソースの選択に関わらずリンクしてしまう不具合を修正しました。
- メーター表示で、OVER レベルの Peak Hold ができない不具合を修正しました。
- メーターポイントが現在の設定と違う設定ファイルをロードすると、一部のメーター動作が設定どおりにならない不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

不具合修正 (V2.01)

- フェーダーバンクや SEND ON FADER を操作した時などに、フェーダー値がまれに本来の値からずれてしまうことがある不具合を修正しました。
- TF 本体と Mac を両方起動した状態で USB ケーブルの接続を行うと、信号処理が停止し、TF の電源再起動を行わないと復帰しないことがある不具合を修正しました。
- R シリーズ V3.11 (Rio3224-D, Rio1608-D, Ri8-D) を NY64-D 経由で Dante Controller でパッチすると、「Dante Version Mismatch」のワーニングメッセージが数秒間表示される不具合を修正しました。

- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- TF の HA Control 設定が OFF の状態で初期化を行うと、初期化最中に「Two or More HA Controllers may Cause Conflict」といワーニングメッセージが表示される場合があります。ただし、実際には初期化は正常に行われます。

V2.00

機能追加

- Dante 入出力用のオプションカード NY64-D に対応しました。NY64-D 経由で、Tio1608-D や R シリーズなどの Dante 機器と接続できるようになりました。Tio1608-D や R シリーズでは HA コントロールもできます。

※ご注意:

- 本バージョンでは、同一ネットワーク上で接続できる機器に下記の制限があります。ヤマハ製 PA 機器や R Remote などのアプリケーションは合計 20 台まで接続できます。そのうち、HA コントロールできる Dante I/O デバイスは 3 台までです。UNIT ID を 1~3 に設定した Tio1608-D は、接続しているだけでこの 3 台に含まれます。
 - 本バージョンでは、TF シリーズの「Quick Config」をオフにして R シリーズ V3.11 を NY64-D に Dante Controller でパッチすれば、R シリーズの音声および HA コントロールの通信が可能になります。ただし、CL/QL シリーズと同じ R シリーズを共有する場合は、TF シリーズの「HA Control」オプションをオフにしてからパッチし、HA コントロールは CL/QL シリーズから行なうことをおすすめします。
- エフェクトタイプに「Ping Pong Delay」、「Dual Pitch」を追加しました。
 - GEQ のゲイン設定を、フェーダーで操作できる機能を追加しました。
 - TF シリーズの設定ファイル内の設定を部分的に選択してロードできる機能「LOAD SELECT」を追加しました。
 - AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でノミナル(0 dB)に設定する機能「All Nominal」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。
 - AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でチャンネルフェーダーの設定値と同じにする機能「Dup.STEREO」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。
 - [TAP]キーの点滅を無効にできる機能「[TAP] Key Blink」を PREFERENCE 画面に追加しました。

- ST IN1/2 や FX RTN 1/2 チャンネルから SUB バスへのセンドができるようになりました。

※ご注意

このパラメーターが存在していないファームウェア V1.x で作成したシーンやチャンネルライブラリーをリコールしたときは、このパラメーターは変更されません。

- HELP 画面の表示言語を追加しました。追加言語は下記のとおりです。
 - Arabic : アラビア語
 - Croatian : クロアチア語
 - Czech : チェコ語
 - Dutch : オランダ語
 - Hindi : ヒンディー語
 - Hungarian : ハンガリー語
 - Persian : ペルシャ語
 - Polish : ポーランド語
 - Romanian : ルーマニア語
 - Serbian : セルビア語
 - Slovenian : スロベニア語
 - Tagalog : タガログ語
 - Turkish : トルコ語
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また、一部のプリセットデータを更新しました。

この変更は、本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると反映されます。

仕様変更

- ステレオリンクしたモノラルチャンネルのチャンネルネームが連動しない仕様に変更しました。ただし、ST IN や AUX9/10 など、常にステレオで動作するチャンネルは連動します。
- リバース系や ER 系のエフェクトを FX1/2、InsFX1~6 のすべてで使用できるようになりました。

動作改善

- [SEL]キーを使ったステレオリンク操作時の動作を、誤操作しにくいタイミングに改善しました。ステレオリンクしたいチャンネルの[SEL]キーを同時に押さずに 1 秒ほど時間を開けて順番に押し、2 つのボタンをそのまま 2 秒以上押し続けてください。
- ライブラリー画面の使い勝手を向上しました。

リコールできないライブラリーが表示されなくなりました。

チャンネルタイプの異なるプリセットから、EQ、COMP、FXなどのモジュールを個別にリコールできるようにになりました。

- ネットワーク端子に何も接続していない状態でも、ネットワークの設定ができるようになりました。
- ネットワーク設定が DHCP のときに、ネットワーク内に DHCP サーバーが存在していない状態でも、TF Editor とメーターのデータ通信ができるようになりました。
- TF Editor や StageMix でシーンのストアやリコールをしたときに、TF シリーズ本体に表示されるシーン番号やタイトルも追従するようになりました。
- 録音の一時停止ができるようになりました。

不具合修正

- チャンネルリンクが設定されている状態で入力ソースを「INPUT」に設定してアナログゲインを操作すると、同じ INPUT 端子の入力信号を使うチャンネル(TF5:CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1:CH1-16 と CH17-32)のアナログゲインが、入力ソースの選択に関わらずリンクしてしまう不具合を修正しました。
- メーター表示で、OVER レベルの Peak Hold ができない不具合を修正しました。
- メーターポイントが現在の設定と違う設定ファイルをロードすると、一部のメーター動作が設定どおりにならない不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- R シリーズ V3.11 (Rio3224-D、Rio1608-D、Ri8-D)を NY64-D 経由で Dante Controller でパッチすると、「Dante Version Mismatch」というワーニングメッセージが数秒間表示される場合があります。ただし、音声の通信や HA コントロールは問題なく行えます。

V1.12

機能追加

- HELP 画面の表示言語を追加しました。追加言語は下記のとおりです。

Bulgarian

Chinese TW (Traditional Chinese)

ブルガリア語

繁体字中国語

デンマーク語

インドネシア語

韓国語

スウェーデン語

タイ語

ベトナム語

仕様変更

- チャンネルライブラリーの初期プリセットを上書き禁止に変更しました。また、初期プリセットの一部のデータを変更しました。この仕様変更を反映するには、TF シリーズ本体を V1.12 にアップデートしたあと、「Initialize All Memories」を実行してください。

不具合の修正

- 操作手順によって[TAP]キーによる操作(ディレイタイムやモジュレーション周波数の変更)ができなくなることがある不具合を修正しました。
- MUTE セクションの[INPUT]キーを押したときの[ON]キーの状態(点灯/点滅/消灯)が、INPUT FADER BANK と CUSTOM FADER BANK とで異なることがある不具合を修正しました。
- CUSTOM FADER BANK で、DCA/AUX にアサインされているチャンネルの[ON]キーの状態(点灯/点滅/消灯)が、不正になることがある不具合を修正しました。
- シーンの保存、タイトルの変更、コンソールファイルのロードをしたときに、MonitorMix に正しい情報が伝わらないことがある不具合を修正しました。MonitorMix は、バージョン V1.0.2 以降をお使いください。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- メーターポイントが現在の設定と異なるコンソールデータのロードを行うと、一部のメーター動作が設定どおりにならないという不具合が見つかりました。
ファイルロード後にメーターポイントを再選択してください。

V1.10

機能追加

- TF Editor に対応しました。
- エフェクトタイプを 9 種類追加しました。
 - EARLY REF *1
 - GATE REVERB *1
 - REVERSE GATE *1

- DELAY>REVERB *1
- CHORUS *2
- FLANGE *2
- SYMPHONIC *2
- PHASER *2
- M BAND COMP *2

*1) FX1, FX2, InsFX1, InsFX2 で使用できます。

*2) すべてのエフェクトで使用できます。

- User Defined Keys と Foot Switch で操作できる機能に、「Brightness」の「Bank Change」を追加しました。
- チャンネルライブラリーの初期 Preset に、新規 Preset を追加しました。本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。
- INPUT 画面で、ステレオリンクしたチャンネルのアナログゲインまたはデジタルゲインのリンクを、一時的に切り離して操作できる「Gain Unlink」ボタンを追加しました。
- INPUT 画面で、入力ソースの設定をフェーダーバンクごと一括で変更するコンテキストメニューを追加しました。

仕様変更

- EQ、GATE、COMP、FX、GEQ の各画面から LIBRARY 画面を起動した場合、[TOUCH AND TURN]ノブを押しこんでプリセットをリコールすると、起動したときの画面に応じて Recall EQ, Recall Gate, Recall COMP, Recall FX, Recall GEQ となるように変更しました。従来どおり Recall CH でリコールする場合は、「Recall CH」をタッチするか、HOME 画面か CH VIEW 画面から LIBRARY 画面を開いて操作してください。

動作改善

- レコーダー機能の録音処理を改善し、使用できる HDD/SDD ドライブが増えました。詳細は対応リストをご参照ください。
- その他の軽微な不具合を修正しました。